

相双海域における漁場底水温とマダコ CPUE の関係

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業—資源管理—タコ類

担当者 舟木優斗

I 新技術の解説

1 要旨

本県沿岸漁業におけるマダコの漁獲実態を明らかにし、資源管理方策の検討のための基礎資料とするため、2018～2023 年漁期の相双海域の灘かご漁業の漁獲高統計を用いて解析を行った。月別 CPUE は 11～12 月にピークを示し、1 月以降は極端に CPUE が低下した。一方、底水温が比較的高い 2022 年漁期と 2023 年漁期は、1 月以降も一定の CPUE を維持していた。底水温が比較的高く推移する漁期は、マダコが本県沿岸に滞留し、漁場が長期間形成されると考えられた。

- (1) 2018～2023 年漁期(9 月～翌 6 月)の相双海域における灘かご漁業の漁獲量と操業延べ隻数を、相馬双葉漁業協同組合の漁獲量月報及び漁獲高統計から抽出した。これを漁期別月別で整理し、藤原(2023)、内田ら(2005)を参考にマダコの獲れ具合(CPUE(kg/隻数))を算出した。
- (2) 本県沿岸で冬季に多獲されるマダコは南下移動する渡り群とされている(秋元・佐藤 1980)。
- (3) マダコ CPUE は 11～12 月にピークを示し、1 月以降極端に低下しており、秋元・佐藤(1980)が示した傾向と類似していた(図 1)。
- (4) (1) で求めた CPUE と調査指導船「いわき丸」で観測した相馬海域(鵜ノ尾埼定線)水深 20m 及び 28m の底水温の関係を整理した(図 2)。
- (5) 2022 年、2023 年漁期については 1 月以降の極端な CPUE の低下はみられず、両漁期の底水温は高く推移していた。
- (6) 各漁期年の 1～6 月の平均底水温と 1～6 月のマダコ CPUE の関係から(図 3)、1 月以降水温が高く推移すると、マダコが滞留し、漁場が長期間形成される可能性が示唆された。

2 期待される効果

- (1) 本県沿岸のマダコ南下移動の基礎資料となり、操業の努力量自主管理を支援できる。

3 適用範囲

- (1) 漁業関係者、研究者

4 普及上の留意点

- (1) 南下移動の解明には、本県南部や他県における漁獲情報を含めた解析が必要。

II 具体的データ等

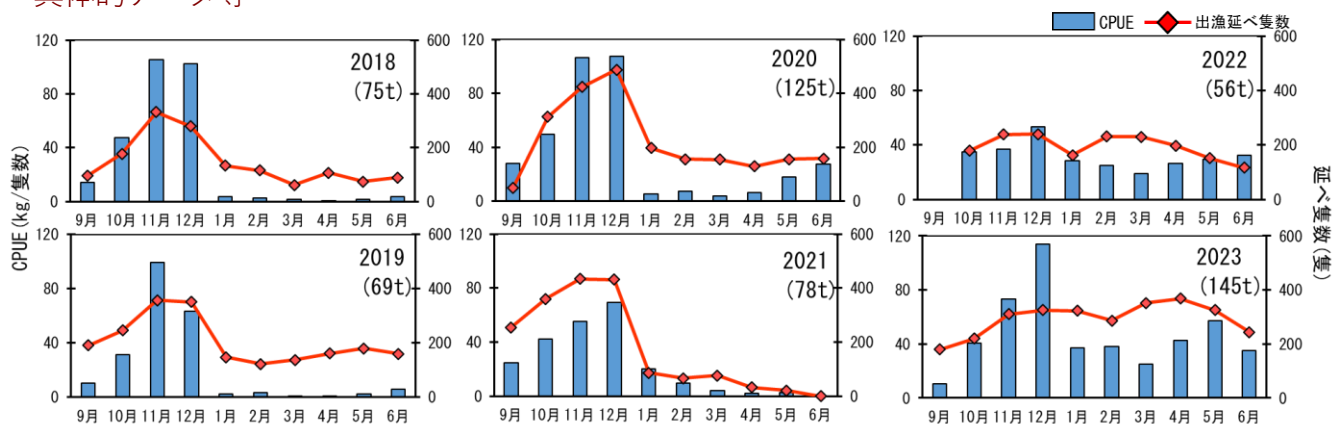


図1 マダコ月別 CPUE 及び延べ隻数の推移()内は各漁期年の漁獲量

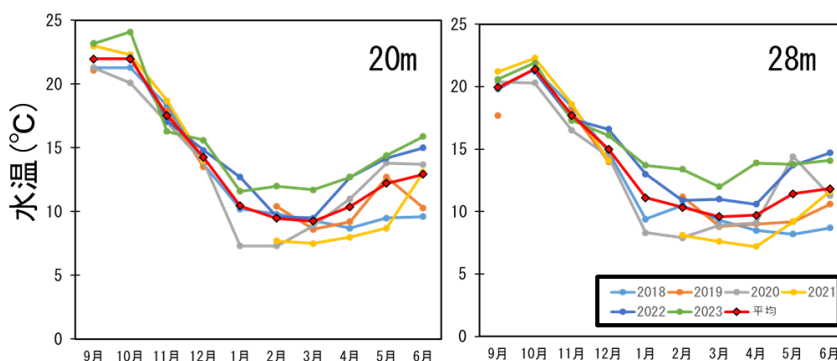


図2 鵜ノ尾埼定線 20, 28m の底水温

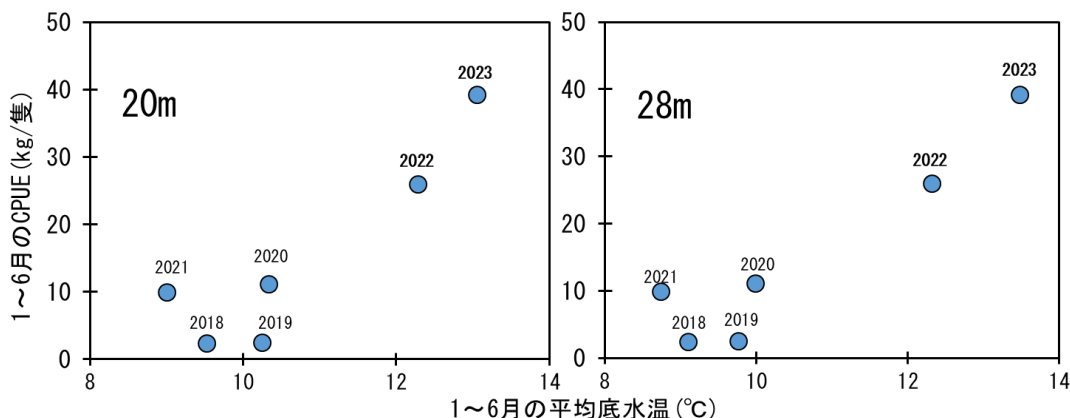


図3 各漁期年における 1~6 月の 20m 深及び 28m 深の平均底水温と 1~6 月のマダコ CPUE の推移

III その他

1 執筆者

舟木優斗

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和 3~令和 7 年度

(2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

3 主な参考文献・資料

(1) 藤原正嗣(2023). 2021 年度三重県におけるマダコの資源評価. 三重水研報. 30. 30-34.

(2) 内田喜隆・吉村栄一・木村博(2005). 山口県瀬戸内海域におけるマダコの生態と資源変動. Yamaguchi Pref. Fish. Res. Ctr., 3. 45-54.

(3) 秋元義正・佐藤照(1980). マダコの生態-I 漁獲量の変動と移動. 福島水試研報. 6. 11-19.